

セクシュアルハラスメント事案に関わる分科会

ウィメンズカウンセリング京都

井上摩耶子

I セクハラ強姦について

- ・セクハラ強姦は、「⑥対人関係のトラブル」ではなく、「①事故や災害の体験」という出来事の類型に入るのではないかと ICD-10、DSMの基準からも。
- ・セクハラ強姦とは、「顔見知りの強姦」(acquaintance rape) = 「顔見知り」の関係における「合意」のない性行為である。
- ・強姦の 80 から 90%は、「顔見知り」からの強姦である。
- ・セクハラ強姦は、均等法セクハラ指針の「対価型セクハラ」の定義——職場における労働者の意に反する性的な言動に対する労働者の対応（拒否されたため、抵抗されたため、抗議されたため）、解雇、降格、減給等の不利益を受けることである——には、収まらないのではないかと。
- ・強姦は、基本的自己決定権「性的自己決定権」の侵害という特徴をもつ。
- ・ASDやPTSDといった精神障害の他に、男性が恐くて結婚できない、セックスができないなどの問題を残す。

II セクハラ強姦事例

単回ケース（会ったその日の事件）

- ・先輩教師から後輩教師へ：相談に乗ると飲みに行ってその日のうちにホテルで強姦。翌日夫に相談。ASD。
- ・上司から試用期間中の女性社員へ：試用期間中の女性社員が、会社のこと、同僚（先輩）のことを知り、自分のことも知ってほしいと、順番に上司や同僚と食事会をすることにした。ある上司が、食事の後、カラオケボックスで強姦。母に相談。以前、軽い鬱で精神科を受診していたので精神科医に話すことができた。PTSD。
- ・演劇塾講師から女性塾生へ：自分の出演している舞台を観に来るように誘い、自分の泊まっているホテルで話そうと誘い強姦。4か月後に精神科医に話す。PTSD。

継続ケース

- ・先輩医師が後輩医師へ：後輩医師の歓迎会でわいせつ行為。翌日からストーキング。1週間後に温泉に呼び出し強姦。継続した「セクハラ強姦」被害。妊娠。1年後に妹に相談。PTSD。精神科入院。（1人暮らし）。
- ・高校講師から非常勤の女性講師へ：はじめて車で送られる途中で強制わいせつ行為、3か月後に強姦。継続した「セクハラ強姦」被害。10か月後に同僚に相談。PTSD的な症状あり（1人暮らし）。

Ⅲ 「セクハラ強姦」事件を打ち明けることの困難

- ・誰に対しても、「セクハラ強姦」は打ち明けにくい（セクハラに比べて）。
- ・家族と同居していて、その関係が良好（？）な場合には、早期に打ち明けることができる。しかし、夫や母親に心配をかけたくないと話せない場合も多い。1人暮らしの場合、電話などで誰かに話すことは稀である。
- ・職場の同僚や公的なセクハラ相談窓口などへの相談は、もっと後。
- ・尊敬する上司などからの「セクハラ強姦」は、被害当事者にとっても、はっきりと「強姦」と捉えられない。なにが起こったのかわからない。いわゆる「外傷ストーリーの再構築」が必要。ここで、唯一の証人である加害者に、「何が起こったのか」を尋ねに出かけて再被害を受けるケースも多い。「セクハラ強姦」が継続することになり、誰かに打ち明けることは、更に困難になる。
- ・上記の理由により、「セクハラ強姦」被害者は「見知らぬ」男性からの強姦被害者よりも、複雑なトラウマ体験を被ることになる。
- ・被害当事者も被害者側を責める「強姦神話」を内面化しているので、自責感や罪悪感にさいなまれ、責められるのではないかと思い、他人に打ち明けることができない。

Ⅳ 労災認定手続き——「発症前6か月間にあった出来事により判断」について

- ・まず、「セクハラ強姦」を精神科医に話すことが困難（男性精神科医が恐い、理解してもらえないだろうと思う、恥ずかしくて話せないなど）で、眠れない、鬱っぽいなどの症状しか話せない。
- ・未だ、「強姦やセクハラでPTSDを発症する」ということを知らない精神科医がいる。
- ・事件後、1年も1年以上も経った受診では、「6か月前の出来事」での判断はできないのでは？
- ・単回の事件ではなく、継続した長期反復する「セクハラ強姦」被害の心理的負荷の評価は？ いわゆる「複雑性PTSD」なども考えられるのか？
- ・長期化する場合、被害者は加害者に抵抗的になるので、セクハラに加えて、報復的なパワーハラスメント被害などの多重被害を受けることになる。
- ・相談したことによって、仲間からトラブルメーカー扱いをされたり、関わりになりたくない仲間はずれにされる。裁判などでの証言などを依頼すると、みんな引いてしまい味方は誰もいないという状態になる。告発したことによる孤立無援状態。
- ・誰かに被害を打ち明け、精神科を受診した後に症状が劇的に悪化する。抑圧し、忘れていたトラウマ体験が蘇るため（エクスポージャー療法のプロセスと同じ）。
- ・セクハラによって、過去の性的虐待体験が蘇った（セクハラ裁判の本人尋問の最中に解離していた養父からの近親姦被害を思い出し、ついでにまだあったセクハラ被害も思い出した）。